

全国障害者問題研究会の研究誌

障害者問題研究

第 49 卷 第 4 号

特集

障害のある人の
思春期における
発達と教育実践

Vol.49

No.4

障害者問題研究 49 卷 4 号を読む会

■ 話題提供 ■

益本裕美さん（放課後等デイサービス モンキーポッド指導員）

「恋心」「憧れ」「お姉さん心」を育み、
思春期の困難を乗り越える

ナビゲーター 白石恵理子さん（滋賀大学教育学部）

■ 参加者の意見交流 ■

日時 5月29日(日)10時～12時

■ zoom ミーティングによる開催



参加者はお手元に当該号をご用意ください。
読む会参加申し込みフォーム（右）からも注文できます。

問い合わせ 全障研事務局 info@nginet.or.jp

お申し込み

<https://forms.gle/9xHeT45hY8Cw2tVu6>



本障害のある人の「思春期」が語られるとき、その「困難さ」「不安定さ」が問題にされることが多い。もちろん、生理的レベルでも大きく変容するときであるだけに、「困難さ」「不安定さ」に結びつきやすいのであるが、思春期のもつ発達の意義は、障害のある人にとってもきわめて重要であることは決して見失われてはならない。

本誌では、73号（1993.5）で「思春期と障害」を特集して以降、思春期の発達を真正面からとりあげた特集は組まれていない。また、特別支援学校中学部の実践については小学部や高等部との接続のなかで語られることが多いが、思春期という発達の時期を踏まえたその固有の価値を明らかにすることも重要な実践課題であろう。

本特集では、人間発達における思春期という時期の普遍性と個々の子どもの障害による固有性を統一的に捉えつつ、思春期の発達保障の取り組みを理論と実践の両面から提起していきたい。

白石恵理子は、障害の重い人にとっての思春期について、感受性の高まり、身体変化に伴う心理的葛藤、他者視点に対する過敏さ、異性への関心の高まりなどの観点から捉えつつ、思春期に求められる教育実践と特別支援学校中学部の課題について整理している。松島・羽山は、特別支援学校中学部教員へのインタビューを通して、教師から見た思春期の発達の特徴と関係性の変化、中学部に固有のカリキュラムと教育方法、そして、教師の関わり方の課題を考察している。垂髪は近江学園、あざみ寮、びわこ学園の職業教育を中心とした実践史とそこでの糸賀一雄の思想の発展過程を、「重症児の生産性」の提起を紹介しつつ考察している。

実践報告では、放課後等デイサービス指導員の益本は思春期を迎えた女子生徒の恋心やお姉さん心の育ちと葛藤をリアルに描きつつ、その成長過程を「覚悟」をもって支えぬく実践を報告している。与謝の海特別支援学校中学部教諭の石田は、中学部から転校してきた、当初は激しい問題行動を表出していた男子生徒が七夕音楽祭などの学校行事の取り組みの中で、葛藤を経な

がら成長を遂げていく過程を描きつつ、思春期における文化活動の意義を提起している。片山は、高等部から医療型障害児施設に入所した重度心身障害の女子生徒への訪問学級の実践で、この女子生徒のおしゃれや芸能人への憧れを共感的に受けとめた活動を展開しており、そこから他者との豊かなつながりを創造している。尾崎は自閉症の我が子の20年間の育ちを振り返りつつ、我が子の思春期の恋愛感情からくる行動や性的な関心の高まりに時には戸惑いながらも、一個の人格をもつ存在として我が子の意思を尊重しながら関わってきたプロセスと自らの思いや願いを生き生きと描いている。

今回、とりあげた実践現場は多様であるが、いずれの報告も思春期を豊かに生きる権利を保障する教育への熱意が伝わってくるものであった。

本特集が、障害の程度にかかわらず、思春期という人生のかけがえのない時期を豊かに生きる権利を保障する教育実践の課題と方法を考える契機にしてもらえることを心から願っている。

特集にあたって 楠 凡之 1

障害の重い人の思春期における発達と教育実践 ● 白石恵理子 2

特別支援学校中学部生徒の発達の特徴と教育実践 ● 松島明日香・羽山裕子 10

思春期における療育・教育実践の歴史から学ぶ ● 垂髪あかり 18

実践報告

「恋心」「憧れ」「お姉さん心」を育み、思春期の困難を乗り越える ● 益本裕美 26

特別支援学校における自分づくりの実践 ● 石田 誠 32

重症心身障害者に対する思春期の実践 ● 片山伴子 38

報 告

娘との生活を共に紡いで ● 尾崎洋子 44

連載 実践に学ぶ

特別支援学校高等部の実践 学校が人を好きになれる場所に 大西友里絵 50

【大西実践に学ぶ】古澤直子 56

「福祉型専攻科」の実践 不安な青年期を乗り越える 西園健三 58

【西園実践に学ぶ】細野浩一 64

連載 ワイドアングル 自分を傷つけずにはいられない子どもたち 松本俊彦 66

動向 東京都の「特別支援教室の運営ガイドライン」導入 東京都教職員組合障害児学級部常任委員会 73

書評 清水寛著『太平洋戦争下の国立ハンセン病療養所』 評者 松岡弘之 78

編集後記 80

第49巻総目次 1

●読む会へのおさそい 滋賀大学・編集委員 白石恵理子

反抗が強まったかと思うとベツリ甘えてくる、イライラしていたかと思うと急に笑い出す、一人になりたがったかと思えば友だちへの意識が強まる…子どもからおとなに変わりゆく時期は、「思春期」という言葉で片づけられないほど、複雑で多面的です。障害のある場合、そうした「ゆれ」「ゆらぎ」が周囲をまきこんだ困難さにつながることもあります。

思春期という、一人ひとりのこどもたちが、新しい世界に気づき、自分を見つめ、ゆっくり自分をつくりかえていくかけがえのない時期を応援するために、周りのおとなや社会に求められていることは何でしょうか。学校、家庭、そして放課後、それぞれの場から考えてみませんか。

今回の「読む会」は、教育や福祉の各現場はもちろん、放課後デイで働く皆さんにも多く参加していただきたく、休日に計画しました。益本さんが、放課後にみせる姿をリアルに語ってくれます。ぜひ、多くの皆さんのご参加をお待ちしています。



●読む会は、現在リモートで行っています。

全国各地から、教員・療育・成人分野・当事者・家族などさまざまな立場、職種がひとつの場集い、学び合い、語り合います。



お求めは

全障研出版部

新宿区西早稲田 2-15-10 西早稲田関口ビル 4 階
電話 (03) 5285-2601・FAX (03) 5285-2603・nginet.or.jp

